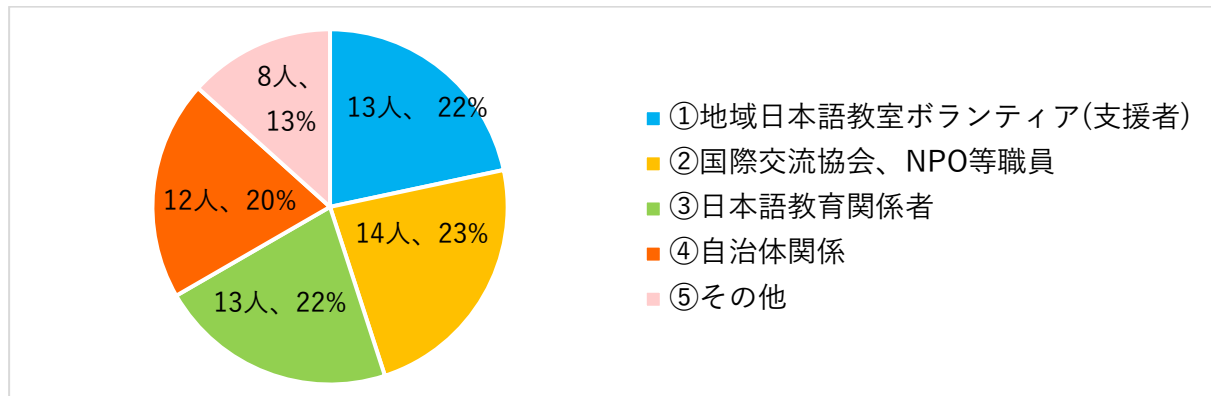


「地域日本語教育シンポジウム in 大垣」 アンケート集計

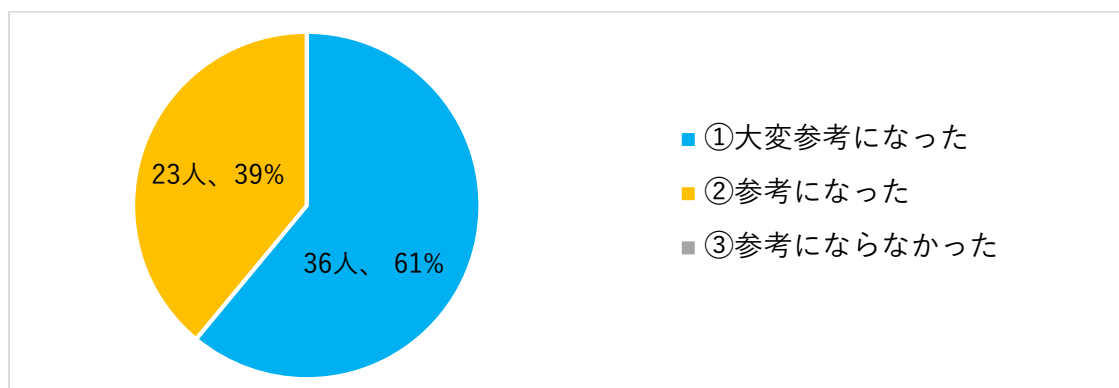
回収数：60 人（会場 15 人、オンライン 45 人）

【1】 ご所属などを教えてください（該当するものにチェックしてください）。

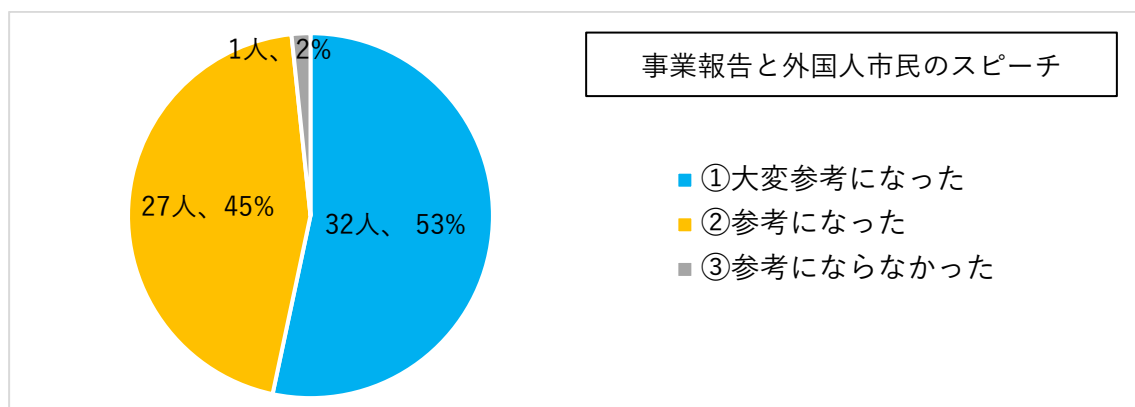


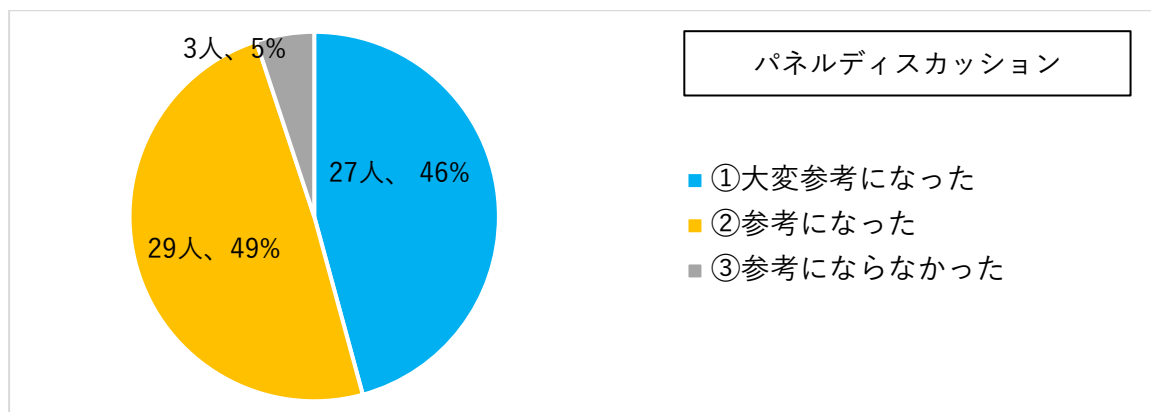
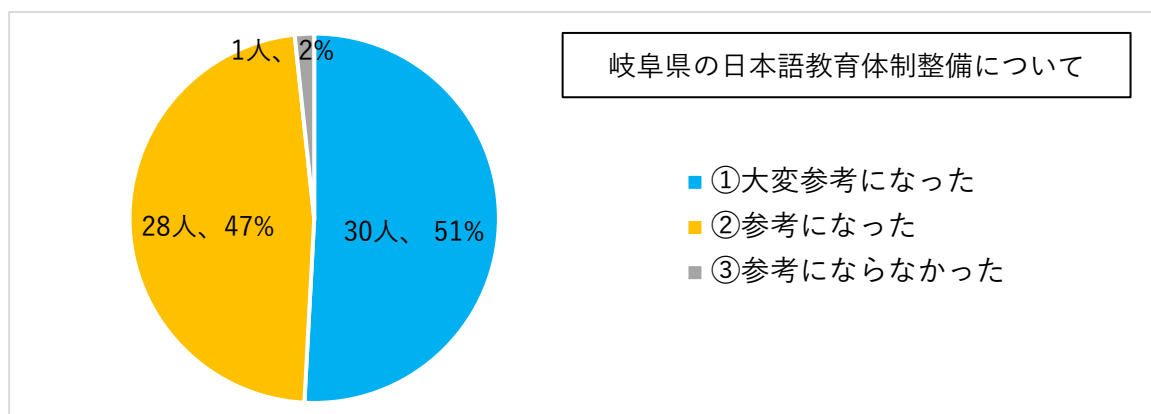
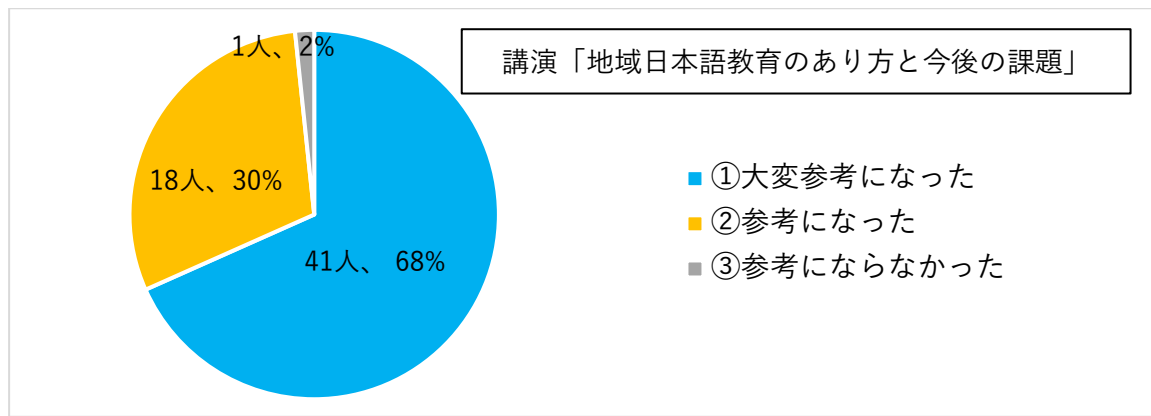
⑤その他：大学院生、一般市民、地域おこし協力隊、当協会の通訳・翻訳ボランティア  
ボランティア兼日本語教育関係者

【2】 本日のシンポジウムの全体の感想を教えてください。



【3】 それぞれの内容について、お聞きします。番号に○をつけてください。





【４】「地域日本語教育」について、知りたいと思うことや聞きたいと思うテーマがあれば、教えてください。

- ・「生活者としての外国人」のための教育カリキュラムはどこで手に入るのか。岐阜県で作成されたものを知りたい。
- ・日本語教室が県内のどこで実施されているのか(来年度も含め)。
- ・学習者は N3、N2 の受講を目的にしている。聞き取り勉強のための教材を借りたい。
- ・市民への広報はどうするのか。
- ・就労者の人たちの日本語教育を受けられる場を増やしていくことではないか。
- ・生活者としての日本語教科書と同様に、就労者のための日本語のような教科書を作るのいいと思います。そうすれば、企業単独で会社で教育活動をする会社も現れるかも。
- ・技能実習生と地域住民との交流促進について

- ・ 地域日本語教室のネットワークや連携について
- ・ パネルディスカッションの中にもありました、他の団体の活動やその成果について知りたいと思います。
- ・ 岐阜県は県レベルで日本語教育を推進しているが、日本語教室のない市町が多いという話を聞きました。県レベルで日本語教育を推進していくためには、ネットワークづくりが欠かせないと思いますが、岐阜県ではどのように工夫されていますか？
- ・ 生活者の具体例。地域にどんな人が住んでいて、困ることがあるとすればどのようなことか。
- ・ 体制整備、支援者育成
- ・ 日本語教育に力を入れているのか、地域の外国人の居場所など作ることが目的なのか。それによって、ボランティアが必要なのか、有資格者（教師）が必要になるかが変わってくるので、難しいところです。ボランティアに対して強制にならない程度の協力がとても難しい。マンツーマン方式の日本語学習支援について詳しく知りたいです。
- ・ 日本語学習支援ボランティアの養成について
- ・ 企業との連携の事例は大変参考になった。地域のボランティア教室で技能実習生のことが問題になるという話を聞いたことがあるので、このような取り組みが増えたらとてもいいと思った。行政と監理団体、企業の連携として、モデルにさせていただきたい。
- ・ トヨタ方式について
- ・ 岐阜県の体制は始まったばかりですが、今後年度報告のような形でどのような成果があったか教えていただけるとありがたいです。複数の市町村それぞれにおける地域日本語教育の実態を、大垣の報告のように聞いてみたいと思いました。
- ・ ボランティア活動と継続性の担保。担い手の選択肢または連携-国際交流と社会教育…日本人が外国語を学ぶように、日本語を学ぶという選択肢があってもよいのでは。会場確保も大変です。
- ・ 外国籍の子ども達に対する日本語教育と公立学校での授業実態とその対策について。どんな取り組みがされているか、今後の展望について知りたいです。マンツーマン学習希望者が、先生のみつからない、待ちの間にも、何かしらの形で日本語学習や日本での社会習慣、マナーを学べる機会があればよいと思います。おしゃべりルームをフリートークだけでなく、企画やテーマのあるものにできないでしょうか。スマホでの参加も気楽にできると思います。
- ・ 地域日本語教室に参加している、専門の日本語教師の先生、アシスタントをしている支援者の方、参加している外国人学習者の方それぞれの生の声、と背景そして満足度など、どうすれば日本語教室には参加していない、地域の住民にも多文化共生の意識を持ってもらえるのか。そのような取り組みが知りたいです。
- ・ 日本語教育ボランティアの育成及び活用

【5】その他、今回のシンポジウムについてのご意見やご感想がありましたら、自由にご記入ください。

- ・とても参考になりました。外国人だけではなく日本人社員、管理職、地域住民、皆の理解や学びが必要だと実感しました。
- ・米勢先生や柏谷先生の「日本語を教えるのではなく、一緒に学ぶ」という言葉はとても勉強になりました。zoomでの参加でもとても分かりやすくて良かったです。
- ・本日はオンラインで視聴させていただきありがとうございました。県と連携した体制づくりや、組合との連携など、大変参考になりました。大垣市多文化共生推進指針(2017年3月)の基本目標1に「日本語能力向上」があげられていることに感動しました。
- ・パネルディスカッションでの、それぞれのお立場でのご意見が聞けて、とても勉強になりました。特に就労者への日本語教育を考えると、企業での仕事に関する日本語や社員とのコミュニケーション、そして「生活者」としての、生活で生かせる日本語学習について、様々な機関や団体、そして彼らの一番身近な存在である日本人住民が協力しながら就労者に寄り添っていくことが大切だと改めて考えさせられました。リンさんのように、実際に教室で学んだ方の意見も企業側にフィードバックすること、それを踏まえて進化させつつ継続していくことは非常に意味のあることだと思いました。成功例としてのモデルケースのようなもの（特に受け入れ側の意識の部分）は、もっと見える形であらゆる実習生受け入れ企業に広まっていけばいいなと思います。
- ・オンラインで参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・本日のパネリストの中で柏谷涼介様や米勢治子様のご意見に賛同いたします。特に柏谷涼介様の日本人の方も外国人の方に寛容になる、人によって通じやすい日本語を話す（日本人同士でも大人と子供では話し方を変えるように）というところはなるほどなと思いました。一方で受け入れる企業の方々にとってはそれぞれの会社を運営して行かなければならないという現実がありますね。ですので、高田様のおっしゃるような最低限の日本語レベルを企業側が求めるというのも理解しました。そしてやはりそのレベルと言うのを何かで測定せねばなりませんから、それを最低N3とか、N4も取れないようでは受け入れは難しいという線引きも現実の会社経営を滞りなく回していくという責務をもった経営者側からしたらそれが死活問題であるため理解いたします。中長期的な視野に立てばやはり寛容性をもって多くの外国人を受け入れることが必要であるとは思いますが。本日は非常に勉強になりました。今後とも宜しく願いいたします。
- ・今日のお話を聞いて、勉学を目的とする留学生と区別して「外国人住民・市民・就労者」と括っても、やはりまだ括りきれず、それぞれ日本語学習に対するニーズは異なるのだということを感じました。日系人の方のように今後も長く日本に住み続けるつもりで家族を帯同している方と、技能実習生として数年をメドに日本に住み、その間にその後の人生のためにいろいろなことを学んでおきたいと思っている方とでは、いまここで欲しているものも違うように思います。私が地域日本語教室で担当していたベトナム人の技能実習生の女の子たちは、職場では上司のベトナム人が説明してくれるし同じような仕事なので日本語で不自由を感じることはほとんどないけれど、帰国後にハノイの日系企業に就職してよりよい給料を得るために日本にいる間にできるだけ日本語を学びたいと言っていました。

そうならば当然 JLPT 対策を日本語教室でもしてもらいたいと思うわけで、勉強っぽい日本語学習をすると満足できるようでした。もちろん、日本文化に触れたり日本人とコミュニケーションをとりたい気持ちも持っているようでしたが。実習生の受け入れ企業サイドのニーズもあると思います。丁寧に各々の希望を拾い上げて少しでもそれに沿うようなサポートができればよいのにな、と思いました。

- ・パネリストに🗨️や👤を送れるアイコンを表示しておいていただきましたかったです。
- ・岐阜県の施策説明の時間をいただきありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いします。
- ・大変参考になりました。いつもこういった地域の日本語教育についてのお話の時、ボランティアで支えるのが当たり前のような風潮があるのが気になっていました。ボランティアが主体になるのは「共生」を掲げる中、理想だとは思いますが、現状、ボランティアが集まらないという大きな問題があるのも事実です。米勢さんのお話のなかで、人を集めたいのなら、もっと自治体が金銭的にサポートすべきというお話がありましたが、まさにその通りだと思います。私は日本語教師として活動しておりますが、地域日本語教室で継続的に仕事があるのなら、平日の仕事を減らし、週末は地域でということも可能です。しかし、現状の無償でという所が多い中では、私も生活があるのでなかなか難しく、踏み込めないでいます。横山さんのお話では、外国人生活者の実態を自治体が把握していないことも多いそうですが、そこからも自治体の意識の低さが伺えます。法律もできたことですし、自治体にがんばってほしいと思います。
- ・私の住んでいる県はまだ外国人人口が1%未満なので、多文化共生というところでは優先順位がまだまだかなというところなんです。大垣国際交流協会様はじめ、岐阜県の取組はすごく進んでいて、驚くとともに勉強になりました。そういうところに外国人の方が住むんだと思いました。大変参考になりました、感謝いたします。スタッフの方々も大変お疲れさまでした。
- ・オンラインでの開催ありがとうございました。岐阜県、及び大垣市の様子を知ることができて参考になりました。
- ・米勢先生のお話が大変分かりやすく、とても参考になる内容だった。今回お聞きしたお話を自分の日々の業務と照らして、「わたしにできること」をしっかりとっていきたいと思った。ありがとうございました。
- ・岐阜県が多文化共生や日本語教育についてこんなに熱心に取り組み多くの活動がなされていることに感動しました。柏谷先生、米勢先生、リンさんのご意見に、日本語教師の一人として大きな刺激と意欲をいただきました。ありがとうございました。
- ・外国人も、受け入れ企業も、受け入れスタッフも、国も、管理団体も、自治体も、私たち市民も、すべての人が社会をつくる意識を持つことが必要だと思いました。大変勉強になりました。いろいろ学んだことで自分の意識が少しずつ変わったことも実感できました。今は東京に住んでおりますが、出生地が大垣だったので参加させていただきました。これが参加した理由です。すみません。大垣で暮らしたこともありませんが、5年位前に息子（18歳）が城めぐりが趣味だったので、大垣城にも足を運びました。関係ない話ですみません。



- ・講演者の米勢先生を始め、多様なご経験をお持ちの方々のお話を伺うことができて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・たくさんの日本語クラスが開設されていて、さらに来年度は回数を増やすとのことで、うらやましいなと思いました。マンツーマン方式と教室形式とでは、在留資格、国籍の割合が異なる点は、面白いなと思いました。が、「生活の日本語クラス」はごみの出し方など生活に直結しているので、ある程度できる人も受けられたらいいのではないかと思います。今回お聞きしたご発表、パネルディスカッションの内容は、今後の体制整備を考えるうえで、参考になる点がとても多く、参加させていただいたことに感謝しています。どうもありがとうございました。
- ・大垣国際交流協会がずっと改善を重ねて取り組んできた様子がわかり、感銘を受けました。ただ、県全体に広げていくためにはまだまだハードルがたくさんあるなあということも感じる時間でした。
- ・予め、質問事項を提出させていただき、ご回答を用意して頂く良いのではないのでしょうか。学習者と研修生を受け入れる企業側、日本語ボランティアの意識を歩みよせていくことが重要だと思いました。
- ・特にパネルディスカッションを聞いていて個々の組織の取り組みや事例についてもっと掘りさげて知りたいと思った。パネリストの人数を絞って特定の組織や問題にフォーカスしたほうが議論が深まったのではとも思った。
- ・一部通信環境が悪かったせいか、質問に対する答えがちぐはぐだったのが残念でした。また、リンさんに寄り添いサポートできる方が会場にいらっしゃれば、もっとよかったのに、と思いました。ありがとうございました
- ・Zoom 参加出来て、良かったです。
- ・大垣市と岐阜県の精力的な取組をお聞きし、参考になりました。
- ・参考になるお話しありがとうございました。オンラインでの運営は大変だったと思います。
- ・ボランティアとして活動させてもらっていますが、もっと関わるための方法を広く広報してほしいと思います。ボランティアの参考になればと思い参加しましたが、課題や現状を提示されただけで残念ですが、参考にはなりません。冒頭のリンさんのスピーチは参考になりました。企業の方向けのシンポジウムであり、一般の人の参加は必要ないと思えました。
- ・Zoom のチャット機能の利用は良いことだと思います（米勢先生の講演で）
- ・パネルディスカッションを Zoom で参加することに慣れていないこともあり、見づらい聞きづらい面が多々あった。
- ・米勢さんの話の内容はよく理解でき、説得力もあり大いに考えさせられ、参考になった。企業内の日本語教室を岐阜県も。
- ・横山氏のコーディネーターとして、全県に向けての活動はわかったが、米勢さんの言われた生活者としての日本語学習が知りたかった（ベトナム人に限定しないで）。
- ・伊藤さんの切り込みや着眼点はとてもよかった。視聴する側の私たちの考えも代弁してうれしかった（特に、日本語能力、受け入れ側の体制など）。
- ・現在の日本語ボラ、教育事情を知る事ができた。ありがとうございました。Zoom 操作音、会場への理解、進行が少々支障に感じることもあった。

- ・ 要点を簡潔に発言することも大切かと。
- ・ 大垣の外国人が安心して、働き、住みやすいまちづくりは一人ひとりの共生の意識を協力、知り合いのアクションに変えていくことが大切だと感じました。
- ・ 日本語ボラだけでなく、趣味・クラブなどへの参加もあると、協力者も増えるのではと思いました。同時に、会話力・特技・楽しみなど。
- ・ 現状が良くわかってよかったです。
- ・ 今回初めて就労者のための日本語教育の実態をすることができた。個々の企業まかせでは、給料不払いの企業ができたりしますが、企業が組合と連携して就労者を支援することは、日本語教育のみならず、給料や生活全般を支援することになり、大変良いと思います。